

シリア核問題

- 2007年9月 イスラエルがDair Alzour施設を空爆により破壊
- 2008年4月 米国がIAEAに、同施設の構築物は北朝鮮製の原子炉施設に極めて類似している旨を通報
- 2008年6月 IAEAの現地調査で、未申告の自然状態でない天然ウラン粒子を検出。シリアは、当該天然ウラン核種は建屋を破壊したミサイルに内包されたものである旨主張。IAEAが評価を行った結果、この核種がミサイルに含まれている可能性はほとんど無いことが判明。IAEAは、施設に関する情報提供と現地調査を要求するが、シリアは施設が非原子力施設としてこれを拒否。
- 2009年6月 IAEA理事会においてダマスカス近傍のMNSR（小型研究炉）においても、申告されていない自然状態でない天然ウラン粒子の検出が報告。同調査では、シリアが保有する標準試料や輸送資材には含まれていない数多くの粒子の存在を示唆。
- 2009年10月 IAEAはシリアに対して施設関連情報及び民生活動関連情報の提供を求めるとともに、破壊された建屋の残骸等へのアクセスを改めて求める書簡を发出。
- 2009年11月 IAEA理事会においてIAEAとシリアの協議状況が報告されたが、そこには大きな進展は無く、事務局からはシリア又は他国からの情報提供が無ければ検証作業が進展しない見込みである旨が述べられている。
- 2011年5月 IAEAは、当該施設は原子炉だった可能性が高いとの報告書を提出
- 2011年6月 IAEA理事会で、シリアが保障措置協定の下での義務を遵守していないとして不遵守を国連安全保障理事会に付託する決議を採択
- 2011年7月 国連安全保障理事会で初協議を開催。露、中の反対で協議は物別れ
- 2013年9月 シリアにおける化学兵器使用問題について、ケリー米国務長官とラブロフ露外相が、シリアにおける化学兵器の完全な廃棄に向け、シリア政府に対し1週間以内に保有する化学兵器を申告すること、国際的な査察を受け入れること等を求めるとした枠組みの合意に達したことを発表。これを受け、国連安全保障理事会は、シリアの化学兵器廃棄に関する決議第2118号を全会一致で採択した。
- 2015年9月 ロシアの軍事介入開始
- 2016年1月 シリアの化学兵器の廃棄作業が完了
- 2017年4月 米国は、アサド政権の化学兵器使用を理由に、巡航ミサイルによるシリア軍基地への攻撃を実施。
- 2018年3月 イスラエルは、2007年のシリアのDair Alzour施設への空爆を認め、同施設が完成間近の原子炉であったと説明

・シリアの核問題に関する安保理協議の見通し：国連安全保障理事会の常任理事国であるロシア、中国は安保理での協議に反対していた。また、シリアのアサド政権の存続を巡り、米国、ロシアが対立している状況下では、進展の見通しを立てることは困難な状況。

・イスラム国は敗退したが、シリアの将来については見通しは立っていない。